もともと納戸であったが、伊達政宗公（1567–1636）に殉死した20名と政宗公の息子である忠宗公（1600–1658）に殉死した１６名の位牌を祀る部屋に変わった。

主の死に対し自殺をすることで忠誠を示すことは殉死と呼ばれ、1663年に幕府によって非合法化された。障壁画は1878年のもので、涅槃を成就し、禅宗で崇拝された仏の弟子である十六羅漢（サンズクリット：arhat）を描いている。